

## 世界が報じた日本

海外主要メディアの日本関連報道  
(7月13日～7月19日)

14～15日付ル・モンド紙(仏) (「原発とアジサイ」フィリップ・ボンス記者):

日本ではデモの習慣は失われていたが、1ヶ月前から毎週金曜日の夕方、総理官邸の前で原発反対の抗議デモが行われている。デモの参加者は回を重ねる毎に増えている。しかし、国内の主要新聞の扱いは非常に小さく、NHKはこれを完全に無視している。参加者数は、主催者側の発表では10万人から15万人だが、警視庁はこの十分の一の数としている。今日日本で繰り広げられているデモは1960年の日米安保条約調印反対デモや、数十年前から続いている沖縄の米軍基地反対デモ以来最大規模だが、これは「アジサイ革命」につながるだろうか。反原発運動の組織はばらばらで、参加者は運動家というより個人としてデモに参加している。60年代及び70年代、原発に反対していたのは農業従事者や漁民で、自分たちの生活様式を守るためであった。その後、チェルノブイリ原発事故で主婦が反原発を訴えるようになり、その後環境保護派が反原発の先鋒を担うようになった。生活の不安定な人々の数が最近急増した日本では、福島原発事故後、これらの人々が新たに抗議活動に加わるようになった。生活の不安定な若者は、自分たちをマージナルな存在に追いやっている社会経済システムに対する欲求不満のはけ口として、時間的な余裕もあることから反原発運動に加わる。

外務省

トップページ &gt; 報道・広報 &gt; 世界が報じた日本 &gt; 海外主要メディアの日本関連報道(7月13日～7月19日)

## 大震災・原発事故

14～15日付ル・モンド紙(仏) (「原発とアジサイ」フィリップ・ボンス記者):

日本ではデモの習慣は失われていたが、1ヶ月前から毎週金曜日の夕方、総理官邸の前で原発反対の抗議デモが行われている。デモの参加者は回を重ねる毎に増えている。しかし、国内の主要新聞の扱いは非常に小さく、NHKはこれを完全に無視している。参加者数は、主催者側の発表では10万人から15万人だが、警視庁はこの十分の一の数としている。今日日本で繰り広げられているデモは1960年の日米安保条約調印反対デモや、数十年前から続いている沖縄の米軍基地反対デモ以来最大規模だが、これは「アジサイ革命」につながるだろうか。反原発運動の組織はばらばらで、参加者は運動家というより個人としてデモに参加している。60年代及び70年代、原発に反対していたのは農業従事者や漁民で、自分たちの生活様式を守るためであった。その後、チェルノブイリ原発事故で主婦が反原発を訴えるようになり、その後環境保護派が反原発の先鋒を担うようになった。生活の不安定な人々の数が最近急増した日本では、福島原発事故後、これらの人々が新たに抗議活動に加わるようになった。生活の不安定な若者は、自分たちをマージナルな存在に追いやっている社会経済システムに対する欲求不満のはけ口として、時間的な余裕もあることから反原発運動に加わる。

2012年7月16日

NHK ニュース7

「16日 反原発 過去最大の集会、主催者発表17万、警視庁発表75000」(1分程度)

NHK ニュースウォッチ9

「16日 反原発の集会・デモ 都内で過去最大規模」

「主催者側の発表でおよそ17万人、警視庁によるとおよそ75000人。東京で行われた反原発デモとしては過去最大の規模になったということです」(1分30秒程度)

2012年7月20日(金)

NHK ニュースウォッチ 9

特集「各地で抗議活動 参加者増の背景は」(8分25秒)

井上あさひ ニュースキャスター：

「市民の声は、じわりと、これまでにない形で広がりつつあります。」

大越健介 ニュースキャスター：

「毎週金曜日に、総理大臣官邸の前で行われている原発稼働再開への抗議活動。ツイッターや口コミで、幅広い年齢層が集まっています。シュプレヒコールの一方で、人々は、自然体で声を結集し始めています。」

### 各地で抗議活動 参加者増の背景は

松村正代 リポーター：

「いま午後6時を回りました。」

雨が降る中、総理大臣官邸につながる道沿い歩道を埋め尽くすほどの人が集まっています。どこまで続くのが見えないくらいです。」

「再稼働反対！再稼働反対！」

原発に反対している団体などが、ことし3月下旬から毎週金曜日を中心に開いている抗議活動。参加者の中には仕事帰りのサラリーマンや子ども連れの主婦などの姿が見られます。

「ツイッターで、いろいろ出ていたので、初めて来ました。」

「日常の一環として今日はじゃあ学校終わったら行こうかっていう感じで。」

「仕事の帰りに時間が少しとれたので、寄ろうかなと思いました。」

選挙もないですし、どこかで何か、意思表示をしたいとか、何か少しやっぱり行動を起こしてみたいかなと。」

「再稼働反対！再稼働反対！」

抗議活動は、大飯原発4号機の発電開始を明日に控えた関西電力の本店前。

さらに、東日本大震災の被災地、仙台でも。

仕事も立場も異なる幅広い年齢層が参加する抗議活動という形が全国に広がっています。

### 普通の市民が次々と

今日の抗議活動に参加するという神奈川県藤沢市の主婦、伊藤牧さん(33歳)です。

原発事故以降、エアコンの代わりに扇風機を使っている伊藤さん。

以前は原子力発電について深く考えることはありませんでした。

伊藤牧さん：

「福島から(電気を)もらっている意識がなかった。申し訳なかったなと。」

抗議活動への参加は今日が3回目。

それまでデモなどに行ったことはありませんでしたが多くの人が集まっていることを知り、自分も何かしたいと思ったといいます。

伊藤牧さん：

「原発がゼロになって、そこから日本が変わったねと、いい日本になりましたとなった時に、さあ、あの時何をしていたかって言って何もしなかったらかっこ悪いなと。」

「再稼働反対！再稼働反対！」

抗議活動への参加をきっかけに始めたフェイスブック。  
活動の様子を紹介すると反応も大きく、共感の広がりを感じています。  
少し天気が気になりますが.....。

伊藤牧さん：

「雨で人が少なそうな時こそちょっと増やさないと。  
『人が減らない』『なんてことだ』と思わせないといけない。」

夫へのメモを残し、官邸前に向かいました。

日本では1960年の安保闘争などかつてはデモなどの抗議活動が頻繁に行われていました。  
全共闘による学生運動などでもデモは続きました。  
しかし、その後は経済の発展とともに社会が安定し、若者の意識も変化する中で以前のような大規模なデモは少なくなっていました。  
かつては盛んだったデモ。  
その時代の空気を知る世代の人でも今回の抗議活動には参加しています。  
都内の出版社に務める61歳の石川洋一さんです。  
デモへの参加は大学1年生の時、サークル活動の友人と一緒に参加した安保闘争以来だといいます。

石川洋一さん：

「あの頃はみんなヘルメットをかぶって、ジグザグデモとか、フランスデモとかいうのもあった。」

「何がいま変わってきた？」

石川洋一さん：

「もう本当にこの国は大丈夫なんだろうか、いろいろな問題がありますけれども、せっぱ詰まってきたんじゃないですかね、ここほんとに数年、そういう思いが皆さんこういう運動になっているのではないかと思います。」

今日が4回目の参加という清水達哉さん、36歳。  
IT企業の正社員でしたが体調を崩して退職。  
その後は飲食店のアルバイトで生活しています。  
賠償の問題など、なかなか救われない福島の実災者の状況に、自らの境遇を重ね合わせてしまうとといいます。

清水達哉さん：

「福島の実災の方々の問題が、自分と同じだという思いがすごく最初から強くて、居ても立ってもいられないというか、とにかく声を上げていれば、何かいい方向になるのではないかと。」

多くの市民が参加するようになった今回の抗議活動。  
かつての学生運動を分析した慶應義塾大学の小熊教授は。

小熊教授：

「20年間経済が停滞し、だんだん格差もひらいてきて、もともと不満や政治不信が高まっている時に、原発事故がおきて、いまの政府が人々の声を聞いているようにみえない。」

人々の声を無視したまま、内輪で全部決めているように見える。  
自分が考え意見を言い、声上げられる社会作りたい。  
そして、その声が受け止められて変わっていくそういう社会作りたいということだと思う。」

今日が3回目の参加となる藤沢市の伊藤さんも到着しました。  
来るたびに、自分のような普通の市民が増えていると感じています。

伊藤牧さん：

「ここで盛り上げて変えられたらうれしい。  
人がいっぱい言ったから変わったという初めてのことになるなと思って、誰も不幸な人がいない感じで電気の作り方になっていけばいいと思う。」

「これからも来ますか？」

伊藤牧さん：

「来ます来ます。毎週金曜はとりあえず来る予定です。」

大越健介：

官邸をはじめとして各地でデモが行われているという現実があります。井上さん見たことがありますか？

井上あさひ：見た事ないんです。

大越：ですよね。

ま、この前といいますとさっきありましたように70年安保をめぐる学生運動などがそれに当たるかなあと思うんですけども、あの時はですね、まさに闘争という名前がふさわしい。

ま、わたしも子どもの頃で、随分前のことですけども。

しかし、それに比べるといまは垣根を低くして、運動がジワリといろんなところに広がっているという感じがしますよね。

今回のテーマは原発という事なんですけれども。

その人々の心理の中には暮らし全般のありとあらゆる問題に対する不満。

その不満の矛先はまさに、あらゆる政府の施策というものに向かっているんだなというふうに感じました。